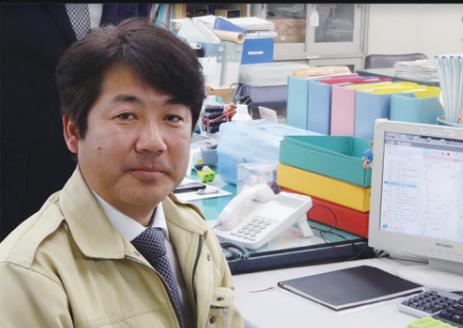


工事実績 DB 導入事例

工事実績の一元管理が、同種工事の検索を省力化。



事業管理部 課長 繁田氏

■ 静和工業株式会社

- ◆売上高/51億円 ◆従業員数/100名
- ◆主な技術者
 - 1 級土木施工管理技士/53名
 - 1 級舗装施工管理技士/31名
 - 技術士(建設部門)/1名
 - 1 級建築士/2名
 - 1 級建築施工管理技士/2名
- ◆建設業種
 - 土木工事業、建築工事業、とび・土工工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、造園工事業、水道施設工事業

導入のきっかけ

元々、専用のオフィスコンピュータを使用して実績管理していました。しかし、オフィスコンピュータの寿命もあり、途中でMicrosoft社のAccess(アクセス)に切り替え、データベースを構築しましたが工事台帳としての必要最低限の機能しか持ち合わせていませんでした。そのため、工事台帳の記録と実績担当者の記憶に頼っているのが現状でした。そんな中、実績管理の担当者も定年を控えていたため、新しい担当者である私への引継ぎに当たって新たな仕組みを検討していたところ、建設システムさんから工事実績DBの紹介を受けたのがきっかけです。

導入前の工事実績の管理方法

Access(アクセス)の工事台帳には、工事名、金額、工期、発注者、配置予定技術者(従事期間はなし)、工種名を記録していました。しかし、入力する人によって、同じ工種であっても入力文字列が異なっていたり、CORINSの工種、工法・型式に添っていなかったりしていたので、実際には書庫に保管してある竣工書類を探すための入口として利用し、工事実績内容は、書類を直接確認していました。

工事実績管理の課題・問題点

Access(アクセス)の工事台帳への記録は、受注時の情報のため、設計変更等があった場合、異なった情報が残っていたという問題

がありました。ですから、実績管理としては利用できず、工事書類を探すための手段としての利用しかできませんでした。また、設計書、表彰、CORINSデータなど入札時に必要な資料が、それぞれ別々の部署で管理していたので、それらの情報を収集するのに時間が掛かっていたのも課題の1つです。同様に、技術者の経験なども実績管理担当者の記憶と本人への二重の確認が必要だったので、手間が掛かっていました。



工事実績 DB を操作する繁田氏

導入の決め手

やはり、大量の工事実績の中から、複数の条件に合った検索が可能だというのが一番の決め手です。我が社は歴史が長いので記憶だと難しい問題があります。そして、工事情報、技術者情報、書類が一元管理できることも魅力的でした。今までは、工事情報、技術者情報、個別書類を管理していたので、工事実績DBで一元管理できれば無駄な労力を使わずに済むと思いました。また、最初は建設シ

ステムさんからの依頼でリリース前のモニターユーザーとして試験的に使い始めましたが、要望を色々汲み取ってもらえ、その後のバージョンアップで対応していただいたことも要因の1つです。長く使用していくことを考えると、より使いやすいものにしていただきたいので、ユーザーの要望にしっかり応えてくれるメーカーが良いと思いました。

工事実績DBの活用

工事管理としては、着工時のCORINS登録及び竣工時のCORINS登録をして、その際、工事成績通知書と工事カルテを工事情報に紐づけています。また、自社独自の工事番号を記録し、保管されている書類がすぐ取り出せるように管理しています。技術者管理としては、資格情報の登録のみ行っています。技術者毎の工事実績や案件は自動的に管理されるので、資格情報の管理だけでも運用可能です。CPDのユニット管理は、別の担当者が管理しているので現状は工事実績DBでの登録は行っていないですが、今後は工事実績DBでの管理も検討していきたいです。最後に案件管理は、営業部から依頼のあった条件での同種工事検索を行い、提出書類の下準備に活用しています。

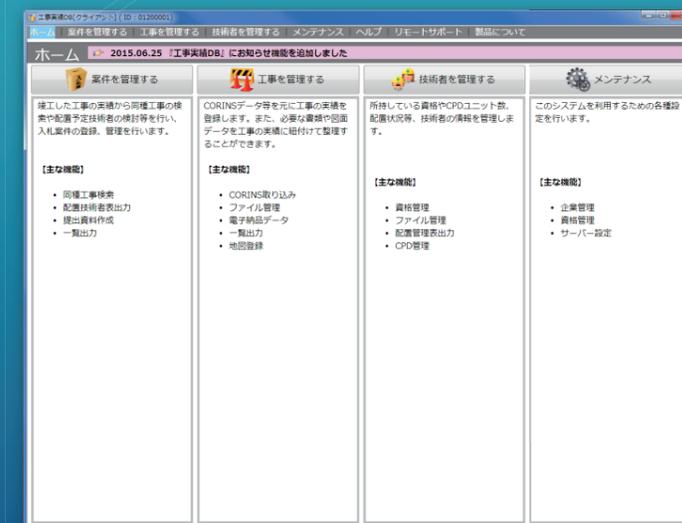
導入して一番良かったこと(成果)

工事実績DBで工事情報、技術者情報、書類の一部を一元管理できたことで省力化できたことではないでしょうか。私自身も繁忙期には現場の応援に行くこともあるので、重要な実績管理を省力化できればその他の仕事にも時間が割けます。また実務においても、導入の決め手にもなった複数の条件での同種工事を探し出す作業は非常に楽になりました。やはり、条件が多くなればなるほど、人の記憶では探し出すのが難しくなるので、確実に同種工事を見つけ出すためにも工事実績DBを導入して良かったと思います。

工事実績管理システム

工事実績 DB

総合評価で勝ち残るために。



●Microsoft、Windows、Excel、Internet Explorerは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。●Adobe、Acrobatは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国およびその他の国における商標または登録商標です。●その他の社名および製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。●記載された仕様は予告なしに変更する場合があります。

違法コピー禁止
このマークは違法コピー禁止マークです
社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会

製品に関する情報は、ホームページをご覧ください

www.kentem.jp

動作環境に関しては、弊社ホームページの動作環境をご確認ください。

■問い合わせ先

■開発元

時をきずき、未来をひらく。 株式会社建設システム

本社 TEL.0545-23-2600 FAX.0545-23-2601
〒417-0862 静岡県富士市石坂312-1

営業所一覧 詳細(住所・FAX等)は弊社ホームページをご確認ください。

札幌 TEL.011-221-6080	関東 TEL.048-662-5192	兵庫 TEL.078-291-5577
帯広 TEL.0155-20-1705	首都圏 TEL.048-662-5192	四国 TEL.087-864-6126
盛岡 TEL.019-629-2733	北陸 TEL.076-210-7067	広島 TEL.082-568-7228
仙台 TEL.022-298-8081	本社 TEL.0545-23-2600	九州 TEL.092-483-2155
新潟 TEL.025-240-5399	名古屋 TEL.052-308-8090	南九州 TEL.099-214-3150
東京 TEL.03-3526-6177	関西 TEL.06-6306-2959	沖縄 TEL.098-941-1514

KS603-02 2019.11

工事实績 DB

総合評価に向けた工事实績のデジタル化。
記憶に頼っていた自社の工事实績を財産として蓄積

入札案件における発注者からの要求が高度化し、煩雑化している総合評価時代で勝ち残るためには、多くの情報を収集し、いかに有効活用するかが決め手となります。「工事实績DB」は、貴社の財産である工事实績を蓄積し、同種工事の検索や配置予定技術者の検討などをアシストし、総合評価対策に大きな変革をもたらします。

総合評価（二極化）導入で高まる工事实績の重要性

総合評価落札方式の大幅な見直し



施工能力評価型 I 型

- 施工計画が点数化されない（可・不可の2段階評価）
事実上、多くの参加企業が施工計画で「可」となるため提案内容では差がつかなくなり、実績のある特定の建設会社に受注が集中する可能性が大きくなる。
- 工事实績・工事成績のウエイトアップ、技術者に対する配点の増加

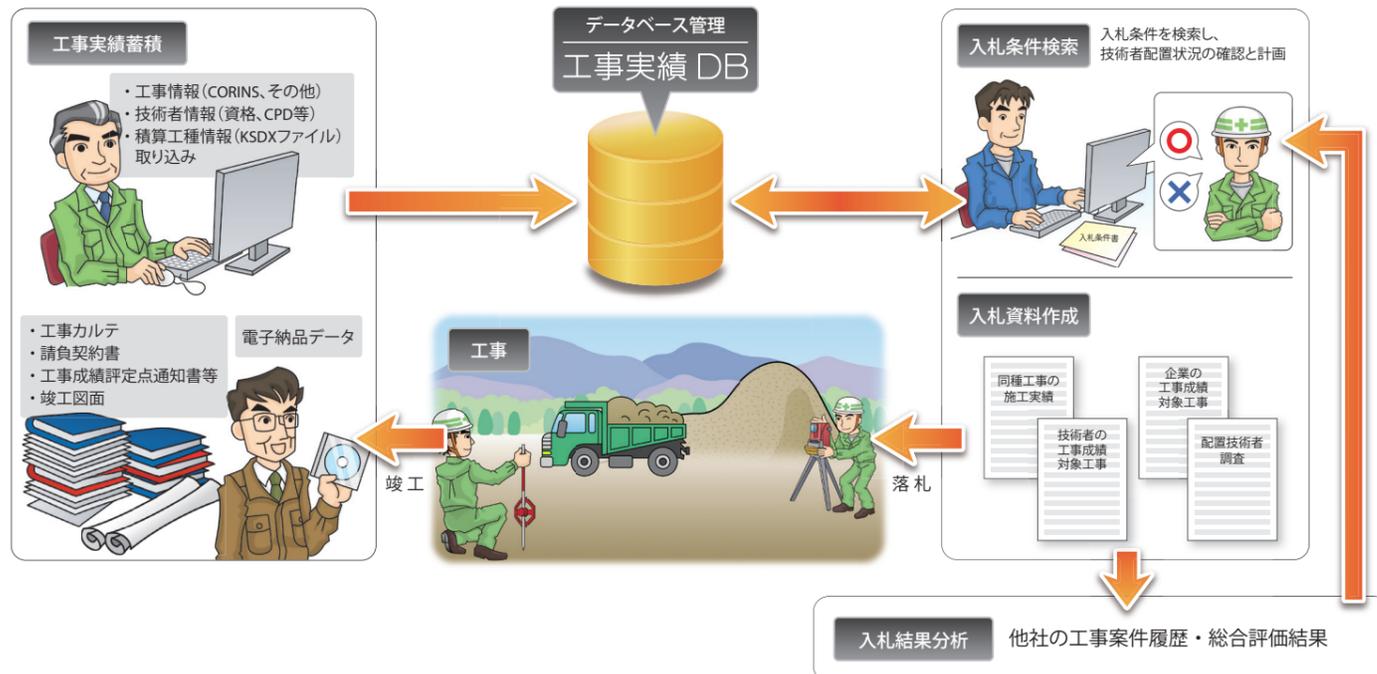
二極化のポイント

複雑な入札条件から、実績関連の評価項目が何点になるのかを判断

- ・会社の実績で何点取れるのか？（最高点をとれるのか）
- ・今後の配置予定計画はどうするのか？（若手技術者育成制度の活用）
- ・過去の工事でどういう立場で従事していたのか？
- ・該当工種の工事成績で何点取れるのか？

正確に素早く評価項目点数を算出し、利益が取れる入札の選別ができる仕組みづくりが必要!

工事实績DBの運用イメージ



工事实績DBでできること

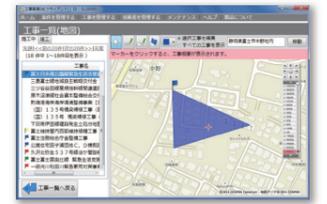
営業部のココが便利!

- 自社が入札資格要件を満たしているかを瞬時に確認
- 記憶に頼らない確実な工事实績の検索
- 競争に優れた同種工事検索や配置予定技術者候補を選定
- 入札時に必要な竣工書類を工事に紐づけて管理
- 地図機能を併用すれば、地図上で工事实績を視覚的に管理
- 企業や配置予定技術者の総合評価点を入力・閲覧



地図上で工事实績を視覚的に確認できます。

保守会員特典



工事实績（施工中・竣工）をゼンリンのデジタル地図で確認できます。インターネット接続で、常に最新の地図に施工実績が保存できます。

※地図表示には、インターネット接続が必要です。
※工事实績DBの地図機能は、株式会社ゼンリンデータコム「いつもNAVI」を利用しています。「いつもNAVI」は、株式会社ゼンリンデータコムにて、運営されています。

充実した「同種工事検索」で、過去の工事实績を速く、正確に検索。



資格要件や施工数量、設計規模、構造形式などの複数条件による組み合わせ検索機能を搭載しているので、蓄積したデータの工事情報を簡単に検索できます。また、同種工事の経験を持つ技術者を、総合評価で優位となる条件で選定できます。

工事部のココが便利!

- 施工中工事から竣工工事までのCORINSベースで管理
- CORINSで登録できなかった情報を自社管理可能
- データベースだからできる工事情報と技術者情報の一元管理
- 技術者の配置状況もリアルタイムに出力OK
- 積算データを紐づけることも可能

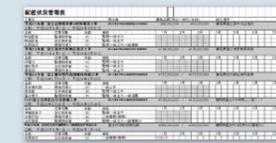


CORINSベースで管理。

工事实績としてCORINSデータを取り込めます。取り込んだデータの編集もできます。編集した場合は、変更内容を証明できる書類や図面も登録します。

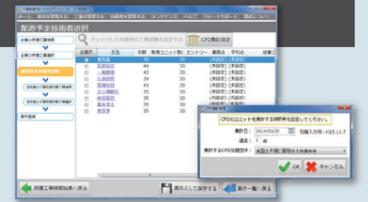
技術者の配置状況もリアルタイムに出力。

今回の入札検討に便利な施工中の工事の工事別配置状況を一目でExcel出力できます。



総務部のココが便利!

- 技術者の基本情報から資格情報まで、一元して管理できる!
- 忘れてはならない監理技術者の講習期限もアラート機能でお知らせしてくれる
- CPD受講履歴は、技士会HPから取得したデータを取り込むだけ
- 集計が面倒なCPDユニットも、加盟団体と対象期間を指定するだけ



重みを増す継続教育の取り組み状況も技術者情報としてDB化

CPD集計では、発注機関ごとに異なる集計期間も自由に設定できるので、技術者のユニット取得情報を確実に蓄積、管理できます。

クラウドへのバックアップ保存で、BCP対策も万全!

法改正により追加で義務付けられた営業に関する書類を実績と合わせて保存可能

建設業の営業に関する書類として、これまで請負った工事の名称等を記載した帳簿及びその添付資料として請負契約の写し等の保管を義務付けられていますが、H20年の建設業法改正を受けて、右記の図書の保管義務が追加されています。

1. 完成図
2. 発注者との打合せ簿
3. 施工体系図

災害対策を考慮したクラウドへのバックアップを実現

各地方整備局で広がりを見せる『企業の継続力認定制度』。御社の重要なデータの災害対策は万全ですか? 災害対策を考慮したバックアップは、確実性だけでなく早期復旧できるかがカギとなります。会社の財産である工事实績をデータベース化した状態でクラウド保存すれば、確実性はもちろん、すぐに取り出せる状態で復元できるので、早期復旧が望めます。

